

児童生徒発表型



大阪市立昭和中学校
植田 恭子

実践テーマ

ICTを活用しグループでの意見交流を効果的に行うことにより、自分の考えや気持ちについて根拠を明確にしてまとめる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 プレゼンテーションソフトウェアや実物投影機を使って提示する。
- 〈展開〉 ・電子黒板に各班の意見を提示し、ポイントとなる部分に線を引きながら説明する。
・インターネットを利用して、途上国の現在の状況について見せ、考えさせる。
- 〈まとめ〉 みんなの意見とさまざまな情報を提示し、意見をまとめさせる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に「おたんじょうび」の文字を映し、そこからイメージすることを話し合う。 『たんじょうび』の表紙を提示し、表紙を読む(実物)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●絵本「たんじょうびーゆたかな国とまずしい国ー」レイフ・クリスチャンソン・文、にもんじまさあき・訳(岩崎書店) ●グループでまとめた意見
展開	<ul style="list-style-type: none"> サブタイトル「ゆたかな国」と「まずしい国」について考える。 『たんじょうび』の読み聞かせを聞く(読み聞かせ)。 「この子」の写真の情報を読む(静止画①)。服装、視線、カメラマンの思い等、写真に写っている情報すべて言葉で導く。 「この子へのプレゼントは？」なにがいいか、根拠を示してグループで交流しまとめる。 グループでまとめたものを提示しながら、ポイントとなる部分に線を引き発表する(静止画②)。 あとがきを読み、プレゼントはこちらの一方的な押し付けではないことを知る。 さらにインターネットを使い、途上国の情報を読む。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 「この子へのプレゼント」について再度考える。 次時の予告。 	



プレゼンテーションソフトウェアを活用し、本の中の写真を表示



グループでまとめた意見を提示

生徒の反応・効果

- ・電子黒板で見せることで、興味を持って授業に臨み、集中力も高まった。
- ・電子黒板に映すことで、表紙の情報も読んでいることを自覚させることができた。
- ・他の班の生徒の意見をポイントを明確にしながらか交流することで、より深めることができた。
- ・電子黒板により学習活動、学習目標、ねらいが明確になった。
- ・電子黒板による提示は学習の手引きの効果もあった。

活用のポイント

- ・プレゼンテーションソフトウェアで瞬時に見やすい状態にするのとは異なり、本の読み聞かせには、実物投影機を活用することで、ページをめくり、拡大絵本を実際に読んでいく実感を感じさせることができる。
- ・事前に機器の操作に習熟させる必要があるが、電子黒板で、ポイントとなる部分に線を引くことで全員に注目させ、考えさせることができる。
- ・実物投影機による提示で、写真の情報などの読み取りや相互の意見交流(伝え合い)をスムーズに行うことができる。
- ・インターネットの最新の情報を活用することができる。そのための準備として情報の価値判断が必要である。